



# ミャンマーに インガラバー

NPO法人  
日本・ミャンマー  
医療人育成支援協会  
〒700-0811  
岡山県岡山市番町2丁目6番7号  
TEL:086-224-0102  
URL:http://www.mjcp.or.jp

詳細な被害状況がなかなか公表されませんでした。結局16日になり死者・行方不明者併せて約12万人に上る大災害であることが判明しました。ニュース報道では、外国からの復興支援の人材受け入れがなかなか許可されないと、支援物資の支給が行き届かない



▲NARGIS直撃で赤色部分が水没地域

2008年5月2日、ミャンマーはサイクロン「NARGIS」の直撃を受け甚大な被害を受けました。最大風速59m/秒の強風と、高潮によりイラワジ川河口から旧首都ヤンゴン近くまでが水没するという甚大な災害に見舞われました。

## サイクロン「NARGIS」直撃被害とその支援

副理事長 小出典男

資金集めのための募金が始まり、岡田理事長はじめ多くの会員が岡山駅前立ち、通行人に募金を呼びかける活動から開始されました。いろいろな事業所や病院にも募金箱を設置させて頂いたり、チャリティーコンサートを開催していただき、約400万円の義捐金を集めることができました。この間中国四川省での地震災害も発生し、NHKではミャンマーのサイクロン災害と中国四川省の大地震災害に対して全国的な

ど、当時は多くの問題が指摘されていました。このような状況下で、私たちのNPO法人日本・ミャンマー医療人支援協会もどのような対応を取るべきか最初は苦慮していました。5月末になり、政府の対応がどのような状況であれ、我々は支援に立ち上がるべきあるとの岡田理事長の指示により、支援活動を実施することとなりました。まずは、

義捐金キャンペーンも行われたことはご存知と思います。このキャンペーンで集まった義捐金の1/2に当たる1000万円がミャンマーに送られたことを考えると、私たちのNPOの募金活動が有効に機能していたか分かると思います。



▲掘っ立て小屋の並ぶ被災地

集まった義捐金と支援物資を運ぶことを目的に、7月6～10日に掛けて岡田理事長はじめ9人のボランティアがミャンマーに行つて参りました。協力関係にあるミャンマーDMR(国立医学研究所)と連絡を取りながら、被災地域で必要とされる物品を義捐金の一部で購入し、その他の寄贈物

品と併せて約200kgの支援物資をミャンマーに運びました。DMRでの支援物資の引渡し式を行った後、被災状況とDMRの人たちの復旧支援状況の説明を受けました。被災地では広い地域で最高水位は9mにも達し、木造かやぶきの建物



▲著者 ヤンゴン国際空港にて支援物資と

は困難であることが分かりました。DMRの人たちが支援グループを作り、流された小型船をチャーターして定期的に被災地を回っているとのことであり、私たちの支援物資も彼らに現地へ運んでもらうことな

もの死者・行方不明者が出たことは十分理解できるものでした。家屋だけでなく食料も流されてしまい、生き残った被災者は非常に困窮していることがよく分かりました。交通が寸断されていることなどもあり、現地に我々が直接入ることは困難であることが分かりました。DMRの人たちが支援グループを作り、流された小型船をチャーターして定期的に被災地を回っているとのことであり、私たちの支援物資も彼らに現地へ運んでもらうことな



▲家も食料もすべて流出

今回のミャンマー訪問に併せて、以前から岡山大学産婦人科本郷先生の支援を受けて進めて来た、ミャンマー初の子宮ガン検診センターの開所式も行われました。DMRそのものも屋根が飛び、大木が倒れるなど大変な被害を蒙っていました。敷地内に新しく作られた子宮ガン検診センターは被害もなく、ミャンマーにおける女性の死亡原因の第二位を占める子宮ガンにたいする検診が今後有効に機能しそういう期待を抱かせるものでした。この子宮ガン検診センターのオープンと災害支援物資の贈呈を



▲支援物資の配布の様子



▲DMRより感謝状

祝う式典が行われ、NPOの支援に対して感謝状が贈られました。帰国を前に、NPOの理事のお一人である下野先生が費用を負担して作られた、クリニックの視察も行いました。下野クリニックは今回の災害では何とか被災を免れ、地域の約12万人の医療センターとしてよく機能しているとの説明を受けました。またクリニックの医師・



▲下野クリニックのスタッフ

計画しておりました。しかし、残念ながら急遽この期間の外国人入国禁止命令が出たとのことで、9月に延期することになったことをご報告いたしておきます。当NPO法人はこれまでミャンマーの医療人育成に努めて参りましたが、NPO法人の支援で日本に留学したミャンマーの医療人関係者が今回のサイクロン被害にあたって復旧支援活動に立ち上がっている状況下で、彼らを支援することも私たちNPO法人のなすべきことであるとの認識で今回の活動が行われました。このことにご賛同いただき、義捐金・支援物資にご協力を頂きました皆様により感謝申し上げます。またミャンマー関係者からも示された感謝の言葉を皆様にお伝えしてご報告とさせていただきます。



▲DMR敷地内での復旧作業

(追記)9月21日ミャンマー訪問を行い、支援活動にひとまず区切りをつけました。

### 岡山の親しい友人 ならびに 同僚の皆様へ

(2008年7月8日)

ヤンゴン総合病院  
エイ・エイ・ジイ

私は白血病の染色体異常を学ぶため、2004年に岡山を訪れましたので、病理学講座、小児科学講座、検査医学講座そして血液学講座の友人や研究者がまだ私のことを覚えて下さっておれば大変嬉しいです。

今回のサイクロン被害地のミャンマー人たちに代わりまして私は心からのお礼を皆様に申し上げたいと思います。岡田教授を通じて届けられました皆様の寄附の品々および寄附金はこの地域の人たちの大変な助けになります。

私は医師として災害救援活動に最初から参加しております。現在はラプタ地域の救済に当たっております。この地域はサイクロン被害の最も大きかった場所のひとつです。ラプタ地域というのはエラワジ河三角地帯にあり、サイクロンの目から直ぐ近くだったのです。それまでの人口は約80万人だったので、土地の人の話では災害の後はその三分の一しか残っ

ていなかった、ということ。死者が多く、最初のころは多くの遺体が河に浮かんでおりました。現在、人々は避難所から帰りつつありますが、それらの地域では支援はまだまだ不十分で、場合によってはまったく援助のない村もあります。そのような理由から、私は機会を見つけては現在もラプタに行くようにしております。これらの地域の人々には米や小屋作りを使うためにいくらかの布(some sheet s、屋根を覆うためのビニール布)を供給してきました。

現在では衣服も少しですが行き渡ってききました。でも、彼らが生活するためにはまだまだ必要な物が沢山あります。国際的なNGOもやってきて、国連組織の補充活動をしてはいますが、まだまだ足りません。

私たちボランティア医師はグループを結成し、週末にその地域までたどり着き彼らの救援にあたります。もう2ヶ月になりました。バスに乗ってもそこに着くまでには一晩かかります。それから村まではボートで行くのです。私たちは様々な病気の手当をするだけでなく、多くの救援物資を持って行きます。例えば、ミャンマー医師会からの救急医薬品、家庭常備

薬、水浄化物質、たいまつ、ろうそく、セッケンなど、また、食べ物、粉ミルク、バケツ(雨水を集めて、貯めておくため。飲み水唯の源です。)、揚げ物や煮物用の容器、毛布、衣服、ビニルシートなども届けます。現金もどうしても必要となります。それは必需品を買ったり、村や建物を直したりするためです。彼らは仏教徒ですから、僧院が主な避難所となり、生き残ったお坊さんが生き残った村人の指導者としてお坊さんです。その様なわけで、村人のためのお金は僧院に託します。また、現地までの旅、物を運ぶための費用も結構高いです。村を訪れるための小舟も不足しています。



▲被災地へ向かう舟の上で

皆様の親切な寄附金は彼らにとつて大変役立つものとして信じています。また私もそれらを最大限に活用し、本当に必要とする人たちに届くように致します。

### 岡田先生へ

下部ミャンマー医学研究所  
所長 キ・ピョン・チ

今回の皆様の医学研究所への訪問は私たちにとても大変楽しいものであります。また、この気持ちは日本の皆様も分かち合ってください。皆様の医学研究所、及び下野クリニクそしてサイクロン被害者たちへの援助には大変感謝しております。

医学研究所の方では、皆様の寄付をどの様に有効に使うか考えています。この金曜日にはクンヤンゴン村近くのタウコー村で1日救援活動を行います。ヤンゴンから3時間かかります。この大きい村は1000家族住んでいましたが、嵐により破壊されました。私たちは、この村に寄付して頂いた医薬品とお金を渡してきます。また、別のグループは来週バイボーン町区近くの村を訪れます。ここでも寄附品を有効に使いたいと思います。

先生たちに頂いたお金を有効にまた後々に残るよう

### 武田先生へ

下部ミャンマー医学研究所  
研究員 ミン・ミン  
(理事 武田和久 訳)

に使うため私たちは小さなクリニクを作ることを考えています。費用としては60万円位と考えています。サイクロンにより田舎の小さな診療所は殆ど破壊されました。皆様の寄付はその二つを再建するのに十分だと思

います。この案に賛成して下さいますか。お返事をお待ちしております。それでは、よろしくお願ひします。

私たちはその地域の沢山の小さい村から大きい村まで小さなボートあるいはカヌーでまわり、サイクロン生存者の診察、救援物資の配布を行いました。これらの被災地にたどり着くには小さな川や狭い水流を辿って行かねばなりません。

この何度もの旅は大変な強行軍で私も疲れましたが、この仕事に私自身満足しています。10カ所の村で約1500人の人たちの治療をし、健康教育、下水や飲み水処理の仕方を示しました。幸いなことに集団下痢、コレラや腸チフスなどの災害による伝染病は出ておりません。一番多いのはウイルス性と思われる胸部感染症や高血圧です。かなりの降圧剤が必要です。

岡田先生には被災者救済活動の写真を送ります。そして、検査試薬をお送り下さるとのご連絡有り難うございました。最も緊急性のたかい試薬のリストを先生に送ります。し

かし、このところ研究と罹災者救援の移動医療チーム活動を5、6ヶ月(これ位は必要と考えています)を続けなければなりません。研究のほうも休む訳には参りません。

では、先生、ご家族にもよろしく。

## 9月17日 研修生 ス・レ・ティ(Su Le Htay)さんの 歓迎会を行いました

今回の研修は岡山県の支援もあって5ヶ月と少し長い期間研修されます。

日本の生活に慣れるのも大変かと思いますが、医学の勉強はもちろん日本語の勉強にも励んでいらっしゃいます。

皆さんの温かいご支援をお願いします。



▲会員の方々と  
(左から2番目がス・レ・ティさん)



▲救助活動中のミンミン医師

# 募金活動にご協力いただきありがとうございました

## 収入の部

個人	2,189,006円
企業	42,600円
ボランティアグループ	1,448,562円
病院	1,065,969円
<b>収入計</b>	<b>4,746,137円</b>

## 支出の部

医薬品、診断器具	2,251,882円	振込手数料、ビザ取得費	93,635円
寄付	1,694,701円	<b>支出計</b>	<b>4,575,690円</b>
荷物発送料、保管料	318,610円	予備	170,447円
募金箱代、印刷代、発送費、文具	70,786円		
アルバイト料、ガンソリン代	146,076円		

(この会計は9月30日 NPO法人 森昭胤監査役により適正であるとの報告を受けました)

▶ 駅前での募金活動



▶ 関西国際空港にて 支利物資と



- |  |  |  |   |   |  |  |   |
|--|--|--|---|---|--|--|---|
| 赤木久泰<br>赤木日出夫<br>赤木忠<br>秋本暁久<br>浅田ひろ子<br>浅沼賢治<br>朝日雅夫<br>足立孝子<br>荒木富美子<br>荒田次郎<br>有田千里<br>池上百合子<br>池田朝子<br>石井さかえ<br>石井幸子<br>石川泰祐<br>石津晃<br>石津順<br>板矢和恵<br>伊藤光治<br>井上正直<br>井上正浩<br>今井常弘<br>井山幸男<br>植野耕次<br>植原恵美子<br>内田輝和<br>江草伸枝<br>江尻博子<br>枝松ご夫妻<br>圓堂稔<br>遠藤洋一<br>大野英治<br>節代<br>大萩順蔵<br>大橋紀子<br>大淵真爾<br>大森紀子<br>大森陽一<br>大森好美<br>岡崎弘<br>岡崎由美<br>岡田茂雄<br>岡田英雄<br>緒方智<br>岡村健嗣<br>岡本敬の介<br>小川俊彦 | 奥井淑美<br>尾島玲子<br>小田敦己<br>小野隆彬<br>尾上寧<br>甲斐敬文<br>加賀山栄<br>垣内悟動<br>影岡優子<br>梶谷文彦<br>片岡和男<br>片倉宏司<br>片田義雄<br>金井ユキ<br>蒲和量<br>栢野温子<br>鳥丸マキ<br>武田和久<br>川本和安<br>河原聖子<br>神原与子<br>神本義博<br>喜多嶋康一<br>喜多村妙子<br>吉川幸枝<br>木村旭<br>木村喜志郎<br>木村文昭<br>木村穂積<br>木村一雄<br>教山群<br>こずえ<br>久保元彦<br>倉森始<br>黒石初江<br>黒田延子<br>黒田那彦<br>高後裕<br>河野勇人<br>中西敏子<br>中野玲子<br>中野紀美子<br>守<br>中原文子<br>中本賀寿夫<br>中山廣士<br>成瀬紘一郎<br>難波悦子<br>難波正義<br>西崎建策 | 佐野弘美<br>品川美和子<br>渋谷久美子<br>島谷信人<br>下野國夫<br>シュツケイジ<br>真治紀之<br>菅野憲<br>妹尾日佐由<br>高木勝<br>高橋栄造<br>高橋平誠<br>高藤祚嗣<br>高谷茂男<br>高山房子<br>武田和久<br>武田賢治<br>武田節子<br>多田廣嗣<br>田辺栄一<br>谷健史<br>田渕浩介<br>田万里正三<br>塚本忠司<br>鶴海富士雄<br>土井博<br>徳元秀臣<br>徳山律子<br>土肥ひろし<br>友保貴博<br>友保宏<br>友保麗子<br>内藤允子<br>永井多計子<br>中島美奈子<br>中島洋一<br>中塚祥一郎<br>中西敏子<br>中野玲子<br>中野紀美子<br>守<br>中原文子<br>中本賀寿夫<br>中山廣士<br>成瀬紘一郎<br>難波悦子<br>難波正義<br>西崎建策 | 西崎慎一郎<br>西崎武芳<br>西崎美美子<br>西崎僚<br>西山秋義<br>西山恒子<br>西山晃史<br>和代<br>西山堅<br>野口治代<br>野崎明<br>野津公<br>野田徳一郎<br>野田泰子<br>野村徹夫<br>野村博<br>泰子<br>波多伸二<br>蜂谷泰祐<br>濱越久美子<br>早崎喜代枝<br>林静代<br>林建次<br>林久男<br>原加代子<br>原憲一<br>原野昭雄<br>日高祐樹<br>姫井恵美子<br>平野紀雄<br>平松緑<br>広中綾子<br>福寿チヒロ<br>福田サカエ<br>福原弘子<br>藤井敏晴<br>藤井五郎<br>藤井美美子<br>藤原日出世<br>本郷博子<br>前坂匡紀<br>前島昌子<br>増田幸央<br>松井浩明<br>松本紫暮<br>松本光雄<br>万倉三正<br>3水会<br>NTTドコモ福山支店 | 三上康江<br>光藤新<br>三橋昭子<br>三宅靖彦<br>宮本喜代子<br>宮本朋幸<br>向畑定秀<br>村上真樹<br>村上洋子<br>森泰伯<br>森昭胤<br>森下勲<br>森田卓司<br>森田好子<br>森本接夫<br>森本三代吉<br>森安武夫<br>薬師寺宏聖<br>安田和人<br>矢野誠<br>矢吹和子<br>山上英明<br>山口輝見子<br>山崎和美<br>山崎保子<br>山下一盛<br>山田<br>山野久美子<br>山元勇<br>山本衛<br>山本敏史<br>山本雄一<br>家守斐夫<br>家森和至<br>湯本泰弘<br>横畑利行<br>横山俊彦<br>吉武徹<br>吉原弘二<br>吉村敦子<br>米田弥寿雄<br>和田加代子<br>和田和子<br>和田武<br>満代<br>渡辺しき子 | NTT労組岡山県グループ連絡協議会<br>アジア教育支援の会<br>阿彌<br>イタリア料理テンドロッサ<br>魚料理磯<br>うどん匠はま弥<br>岡山県ビルマ会<br>岡山大学医歯薬学総合研究科<br>細胞生物学教室<br>岡山大学ミャンマー留学生会<br>岡山西ロータリークラブ<br>岡山理科大学学生食堂<br>岡山理科大学親和会<br>カーオーディオメディックス<br>加計学園<br>カチカチ会<br>サカエヤ本店<br>三備道路株式会社<br>スナミ<br>高粱学園ボランティアセンター<br>竹垣フルーツ<br>玉野総合医療専門学校職員教員<br>玉野総合医療専門学校同窓会<br>東洋技研株式会社<br>早島町国際交流協会<br>フジテック株式会社<br>ブティックイシハラ<br>ペットショップチャイルド<br>星島会<br>マイクロ印刷株式会社<br>リラクゼーションハウスミント<br>和楽<br>あいたに整形外科<br>青景医院<br>あかね動物病院<br>池田病院<br>いけだ小児科<br>いしおか医院<br>いそだ病院<br>石川内科医院<br>井上医院<br>井上クリニック<br>いぶき小児科<br>上原医院<br>大石医院<br>おおえ小児科<br>大田記念病院<br>大西内科消化器科医院 | 岡崎歯科医院<br>岡山大学病院<br>奥野皮膚科<br>奥坊クリニック<br>片岡内科胃腸科医院<br>川崎病院看護部<br>木村小児科<br>楠本病院<br>倉敷中央病院<br>クリニック和田<br>黒木眼科医院<br>黒瀬クリニック<br>小池病院<br>光生病院<br>光南台クリニック<br>国立療養所 邑久光明園<br>古城クリニック<br>こじょう内科<br>児玉クリニック<br>さいきじんクリニック<br>さいとう小児科<br>坂田耳鼻咽喉科医院<br>佐藤胃腸科医院<br>三水会 田尻病院<br>山陽病院<br>島谷病院<br>白河産婦人科<br>操風会 旭東病院<br>平病院<br>武皮膚科医院<br>多田病院<br>中国中央病院<br>塚本産婦人科内科病院<br>寺岡整形外科病院<br>徳永病院<br>とくも胃腸科皮膚科<br>富永内科医院<br>鳥枝歯科医院<br>鍋島皮膚科形成外科医院<br>日本鋼管福山病院<br>日野内科・小児科クリニック<br>日野ホームクリニック内科・小児科<br>福山医療センター(旧福山国立病院)<br>福山検診所<br>福山市医師会総合検診センター<br>福山市民病院<br>福山城西病院<br>福山仁風荘病院<br>福山第一病院 | 藤井小児科・皮膚科医院<br>藤井整形外科<br>藤井内科胃腸科呼吸器科<br>藤井病院<br>藤田小児科内科医院<br>ふじもり医院<br>法宗医院<br>細木小児科<br>堀産婦人科麻酔科医院<br>前原病院<br>巻幡内科<br>まつなが産科婦人科<br>まつはまクリニック<br>まつもりファミリークリニック<br>水永病院<br>みつふじ小児科<br>美作市立大原病院<br>三宅整形外科病院<br>明神館脳神経外科<br>森近内科<br>森内科<br>山元胃腸科<br>山本醫院<br>よしだレディースクリニック内科・小児科<br>里仁苑介護老人保健施設<br>若林医院<br><br>そのほか 駅前街頭募金にご協力くださった皆様<br><br>(あいうえお順 敬称略) |
|--|--|--|---|---|--|--|---|

## 日緬交流会 企画

### 日緬の親睦を 深めましょう



近日中に開催予定!

## ミャンマー保健省副大臣 パインソー氏を囲んで

この度ミャンマー保健省の副大臣であるパインソー氏が来日されます。その際にパインソー氏を囲んでミャンマーの現状を直接お聞きしたいと思います。

パインソー氏は前ミャンマー医学研究所所長で腎臓を専門とする医師です。

### ＜目的＞

- 1 日本ミャンマー医療人育成支援協会に一般会員に実際のミャンマー人から話を聞くことで会の活動内容を再認識してもらおうとともにミャンマー人との交流の機会とする。
- 2 パインソー氏に日本ミャンマー医療人育成支援協会が多くの会員で構成されていることを知ってもらい、今後のミャンマーと日本の友好、交流を積極的に推進していただく礎にしたい。
- 3 一般会員以外の多くの聴講者を募ることで日本ミャンマー医療人育成支援協会の活動の一環を知ってもらい会員募集に繋げる。

日時 11月8日(土) 午前10時~12時

会費 500円

場所 岡山天神山プラザ 3F 第二会議室

〒700-0814 岡山市天神町8-54 086-226-5005

**ミャンマーサイクロン 緊急医療の人的支援 活動について**  
 -平成20年8月31日の岡山県立大学大学院 「災害医療援助特論」公開講座講演要旨-  
 NPO法人 日本ミャンマー医療人育成支援協会  
 理事長 **岡田 茂**  
 加計学園理事・玉野総合医療専門学校校長

私たちは1996年(平成8年)以来、ミャンマーとの医学協同研究、医療支援活動を行っており、2006年に「NPO法人日本ミャンマー医療人育成支援協会」を立ち上げて、会員の支援を得て医療人の育成事業を本格化してきた。ミャンマーは東南アジア随といつて良い位の親日国であり、町を走っている車の90%以上は日本製であり、一般に日本製品への信頼度は高い。

今回のサイクロン「ナルギス」の被害(5月2、3日、死者・行方不明者14万人)に対しての支援活動もNPO会員を中心に、多くの医療機関ボランティアグループの助けを借りてやり遂げることができた。また、7月の支援グループ訪問についてもミャンマー側の受け入れ態勢は十分であり、私たちの支援物資・義捐金もミャンマー側のボランティアグループを通じて被災者に渡されることが確認された。この訪緬時には、これまで支援してきた「子宮癌検診センター」の開所式も挙行され、ミャンマー女性に取っての初の検診センターが発足する喜びを味わうことができた。(この時の詳細は、本号の小出典男副理事長の報告を参照ください。)

ミャンマーサイクロンの人的支援の状況は、その直後の中国四川省の大震災(5月12日、死者約7万人)と並行的、あるいは対比的に報道され、ミャンマーを特異な国と印象づけられた人も少なくない。まず、被害地域の状況に関する報道が少なかつた。また、ミャンマー政府の外国からの人的支援拒否の姿勢が強く打ち出されていた。最初に受け入れたのは日本政府医療チームで、5月29日より2週間、23名あった。民間からの最初は、AMDAであり、6月8日より18日間、日本より5名に現地AMDAの要員が加わって活動した。

次に、今回のサイクロン災害の特異さは、はげしい風水害を伴ったサイクロンのこの地域での経験、備えが皆無であったこと。被害場所が河口のデルタ低湿地帯で、標高は5メートル以下、恒久高層建築物は皆無であり、ライフラインが存在しない。また、

地域は広範で、住民・村落そのものの確認も困難な所が多く、子供の被害が大きかった。また、これらの場所は自動車等の通常ルートからのアクセスはほぼ不可能であり、小さな舟でしか近づけない。このようなことから、ミャンマーの国情のためばかりではなく、実際に被害の状況を把握するための確認は困難を極めたものと想像される。これらの理由により、外国からの救助活動についても、自己完結型支援(現地の人たち、インフラを利用することなく、支援活動から支援者の生活に至るまでの総てを支援者がまかなう形の支援)は不可能であると考えられ、現実にも、人的支援の主体は残った仏教寺院における僧侶と何時間もかけてやってくる地元ボランティアの協同活動に依存している。

このように考えると国情、政治体制、地域、貧困度のまたく異なる国における人的な支援体制は如何にあるべきかという問題に突き当たります。それには、支援する側の価値観の問題が大きく左右する。特定の国を支援したいのか、それとも貧困な被災国であれば、すべて支援の対象となるのか。また、支援の目標は何処におき、達成度の評価はどのように行うのか。

継続的なものか特定の時期だけなのか。物質的な支援はひとまず置き、人的な支援はその被災地に長らく係わってきた組織、人間を中心として現地のニーズ、国情を把握して行うのが、最も意味のあるやり方ではなからうか。今回のAMDAやジャパンハート(吉岡医師)の現地における支援援助が可能だったのは、平時よりの支援活動を続けていた信頼関係に基づくものであり、私たちの支援活動が現地のボランティア活動と直接結びついたのもこれまでの信頼関係によるものであると考える。このようにして、継続支援も可能であり、「被災地の人々を忘れていない」という精神的な支援も送り続けることができる。今回はミャンマーという一般にあまり馴染みのない国が被災地であったため、その特異さが余りにも表面に出た感じがある。しかし、大規模な自然災害と人的な国際支援を振り返ってみると、例えば、2005年のアメリカのサイクロン「カトリーナ」災害において、ブッシュ大統領は「外国の援助を必要としない」と明言しているし、四川省の地震においても、当初は「交通インフラの分断により、被災地入りか困難。被災地の食料、飲料水が決定的に不足しており、救援隊を受け入れる最低限の設備がない」とのことから外国からの人的支援を拒否していた。実は、13年前の神戸大震災においても、米国の軍艦2隻がベツドを用意して神戸港に入港しようとしたが、神戸市により拒否され入港していない。また、ヨーロッパからの救助犬、フランス医師も日本までやってきたが、活動はできなかつた。また、多くのボランティアが身一つで神戸まで赴き、「何か助けになることをしたい」と志願したが、誰も相手にしてくれず不満をもつて帰った、という話も当時聞いた。このように考えると、今回のミャンマーの外国人支援拒否の話も、ミャンマーの軍政と関連した特別のことでは無いことが分かる。

人的支援は、えてして支援する側からの論理を押しつけて「よし」とする気風が強い気がする。両者に信頼関係がなければどのような援助も意味をなさない。人的支援を成功させるためには、平時より信頼関係をもった海外活動団体を国ごとに育成する必要があると考える。このような意味で、今回のミャンマーサイクロン被害の支援における日本からの人的支援の成功は良い例になるのではないかと考えられる。

**広報室から**

この度サイクロンの被害にあったデルタ地帯は、稲作が行われる豊かな地域です。ミャンマーの主要輸出品である稲作にダメージがあったことは、国全体でも大きな損失となつたでしょう。災害後徐々に米の植え付けが出来る地域もふえていくそう、それらの稲が収穫を迎えるまでは被災者の方々は苦しい生活を強いられるようです。それまでをまず一区切りの支援と考えています。

さて9月1日より新しい留学生が来岡されています。ス・レ・ティ医師です。現在、岡大病院腎臓内科(植野教授)で研修しています。今回は県の支援もあり5ヶ月間の滞在となります。そして大変恵まれたことに初めの1ヶ月間は毎日日本語の勉強をする時間が与えられます。親睦の第歩はまず言葉から日本語を学びながら、日本の文化に興味を持ってもらえれば、大変有効な交流になると思います。なにとぞ皆様方のご支援賜りますようお願い申し上げます。

<http://www.sky-net.or.jp/akane/>

**あかね動物病院**



**Policy** | ●心のこもったサービス精神 ●動物達・飼い主様の満足 ●動物にやさしい治療  
 ●健康診断・ドックの推進

基本方針

〒720-0002 広島県福山市御幸町下岩成1144-3  
 TEL(084)955-0505 FAX(084)955-0909

■診療時間/午前: 10:00~22:00 ※PM2:00~PM4:00は手術時間のため予約のみ受け付けます  
 ■休診日/毎週月曜日

**大型 駐車場完備 [30台]**

午後10時まで診療をおこなっております。  
**緊急対応 いたします!**

「ペットホテル」「グルーミング」もございまして、ご利用下さい